



「笹川杯作文コンクール2009」～日本語で応募～ 優勝作品

※日本語の原文を尊重し、一切手を加えておりません。

「日本のイメージ」

江南大学 程天然



タクシーがひとりでにドアが開いたり閉まったりする。そして、降りるとき、車外に降り立って、ドアはそのままにして放っておけばいいのは日本しかないと言われている。

コインを入れれば商品が出てくる自動販売機は、アメリカで発明されたものだそうだ。しかし、それを、冷たいジュースから、熱いコーヒーまで、日本酒からてんぷらまで出てくるようにしたのは、ただ、日本だけである。

乗車券の自動販売機は、先進国にもある。だが、さまざまな種類のコインを自由に飲み込んで、おつりまで出してくれる機械は、日本独特であると言われている。

とにかく、日本はこんな高度な科学技術を持つ国である。これは、私が一衣帯水の隣国、日本に関して、一番最初に感じ、そして最も強烈に残っている印象である。

私は、大学で教科書を学ぶ以外の知識を、文学から学ぶことが多い。たとえば、東山魁夷という画家の「一枚の葉」という話がある。「人はもっと謙虚に自然を風景を見つめるべきである。それには、旅に出て大自然に接することも必要であるが、異なった風土での人々の生活を興味深く眺めるのもよいが、私たちの住んでいる近くに、たとえば、庭の一本の木、一枚の葉でも心をこめて眺めれば、根源的な生の意義を感じ取る場合があると思われる」。

日本人は特にこのような自然の変化に敏感であり、一瞬の変化に中にもまとまりを感じ取る感受性の豊かさを持っている。

私は、この地球が人間だけの所有物ではないと考えている。そして、日本人は、自然の生物を大切にする。一枚の葉に限らず、自然が人間だけが住む世界ではないことを教えてくれると考えているからだ。山や川、海や空、雲、雨、雪などだけではなく、草だとか、花だとか、鳥や、獣とかいった生物たちから、強く生の意義を感じ取るのは、日本人である。自然を人間と対立するものとは考えず、自然の恩恵に感謝しながら生活し、自然と調和、共存していこうとする考え方は、日本人が古来から持ち続けている自然観である。

夕日に古い町沿いの紅葉の木が照り映え、先端的な自動販売機が並んでいる。青い空にそびえたっているモダンビルと、日本家屋の住まいが調和して、大変美しい。このように日本は、まさに科学技術と自然が共存している国である。これは、今、私が最も強く抱いているイメージである。歴史的な問題もあり、中国の発展は日本より三、四十年ほど遅れてしまった。けれども、もし、中国が経済を追い求めるだけでなく自然を大切にすることを忘れなければ、美しい国になることは、単なる理想ではないだろう。